



次世代バイオ燃料の導入に向けた実証試験開始 ～YC1系車両の営業運転にて実施～

JR九州グループでは、「JR九州グループ環境ビジョン 2050」のもと、地球温暖化の原因となるGHG排出量の削減など、脱炭素社会の実現に向けて環境と調和した事業展開を目指しています。

その取り組みの一環として鉄道車両の脱炭素化に向けて、次世代バイオ燃料(HVO)を軽油に代わる燃料として九州旅客鉄道株式会社保有車両に導入することを検討しています。今回、構内での試運転など必要な検証が完了したため、営業列車で実証試験を開始いたします。

○次世代バイオ燃料(通称 HVO:Hydrotreated Vegetable Oil)とは？

次世代バイオ燃料(HVO)は廃食用油や植物油を原料とし、水素処理(加水素分解・脱酸素)によって精製された次世代の再生可能ディーゼル燃料です。軽油とほぼ同等の化学構造を持つため、エンジンの改造や、燃料タンクなどの設備改修が不要なドロップイン燃料です。

なお、本実証試験においては、伊藤忠エネクス株式会社が製造・供給する「FINE DIESEL」を使用いたします。「FINE DIESEL」は、軽油に最大40%の「リニューアブルディーゼル(RD)」を混合した燃料です。



○実証試験の内容

- 試験車両:YC1系車両
※3両編成のうち1両で、定期的にHVOを給油
- 試験期間 2026年5月27日～2028年3月(予定)
- 走行線区
 - ・長崎本線…江北駅～長崎駅間(※長崎旧線含む)
 - ・佐世保線…江北駅～佐世保駅間
 - ・大村線…早岐駅～諫早駅間

※試験車両には右記ステッカーを車内・車外に掲示します。



試験車両に掲示するステッカー